

Acronis



Acronis Backup 11.7 Update 1

該当する製品

For Linux Server

インストール ガイド

著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2018. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis Secure Zone」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Instant Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国およびその他の管轄区域における商標および登録商標です。

Windows および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。

ユーザズ ガイドに掲載されている商標や著作権は、すべてそれぞれ各社に所有権があります。

著作権者の明示的許可なく本書を修正したものを配布することは禁じられています。

著作権者の事前の許可がない限り、商用目的で書籍の体裁をとる作品または派生的作品を販売させることは禁じられています。

本書は「現状のまま」使用されることを前提としており、商品性の黙示の保証および特定の適合性または非違反性の保証など、すべての明示的もしくは黙示的条件、表示および保証を一切行いません。ただし、この免責条項が法的に無効とされる場合はこの限りではありません。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。ソフトウェアまたはサービスで使用されているサードパーティのコードおよび関連ライセンス条項の最新の一覧については <https://kb.acronis.com/content/7696>（英語）をご参照ください。

Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の 1 つ以上の米国特許によって保護されています。7,047,380 号、7,246,211 号、7,275,139 号、7,281,104 号、7,318,135 号、7,353,355 号、7,366,859 号、7,383,327 号、7,475,282 号、7,603,533 号、7,636,824 号、7,650,473 号、7,721,138 号、7,779,221 号、7,831,789 号、7,836,053 号、7,886,120 号、7,895,403 号、7,934,064 号、7,937,612 号、7,941,510 号、7,949,635 号、7,953,948 号、7,979,690 号、8,005,797 号、8,051,044 号、8,069,320 号、8,073,815 号、8,074,035 号、8,074,276 号、8,145,607 号、8,180,984 号、8,225,133 号、8,261,035 号、8,296,264 号、8,312,259 号、8,347,137 号、8,484,427 号、8,645,748 号、8,732,121 号、8,850,060 号、8,856,927 号、8,996,830 号、9,213,697 号、9,400,886 号、9,424,678 号、9,436,558 号、9,471,441 号、9,501,234 号、および出願中特許。

目次

1 インストールする前に	5
1.1 試用モードでの製品の使用について	5
1.2 Acronis Backup および Acronis Backup Advanced のライセンス	6
1.3 Acronis Backup コンポーネント	8
1.3.1 エージェント for Linux	8
1.3.2 管理コンソール	10
1.3.3 ブータブル メディア ビルダ	10
1.4 サポートされるオペレーティング システム	10
1.5 システム要件	11
2 Acronis Backup のインストール	11
2.1 準備	12
2.1.1 RPM パッケージ マネージャ	12
2.1.2 Linux packages	12
2.1.3 インストール ファイル	16
2.2 対話型モードでのインストール	16
2.3 無人モードでのインストール	17
2.4 コマンドライン パラメータ	17
3 Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へのアップグレード	19
4 ソフトウェアのアップデートの確認	22
5 Acronis Backup のアンインストール	22
6 Acronis セキュア ゾーンの削除	23

1 インストールする前に

このセクションでは、製品のインストール前に生じることが予想される疑問点について説明します。

1.1 試用モードでの製品の使用について

Acronis Backup のライセンスを購入する前に、ソフトウェアを試してみることが可能です。試用版は、プロダクト キーなしで使用できます。

試用モードで製品をインストールするには、セットアップ プログラムをローカルで実行するか、リモート インストール機能を使用します。無人インストールとその他のインストール方法は、サポートされていません。

試用モードの制限

Acronis Backup を試用モードでインストールする場合、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能は使用できません。ユーザー インターフェイスを試用することはできませんが、変更を適用するオプションはありません。
- 復元機能は使用できますが、バックアップ機能は使用できません。バックアップ機能を試用するには、本ソフトウェアをオペレーティング システムにインストールしてください。

完全モードへのアップグレード

試用期間が終了すると、製品の GUI にプロダクト キーを指定または取得するように求める通知が表示されます。

プロダクト キーを指定するには、**[ヘルプ] > [ライセンスの変更]** をクリックします。セットアップ プログラムを実行することによってプロダクト キーを指定することはできません。

クラウド バックアップ サービスの試用サブスクリプションをアクティブ化するか、サブスクリプションを購入した場合、プロダクト キーを指定しているかどうかに関係なく、サブスクリプションの有効期限が切れるまでクラウド バックアップを利用できます。

1.2 Acronis Backup および Acronis Backup Advanced のライセンス

Acronis Backup 製品ファミリおよび Acronis Backup Advanced スイートのライセンスは、その製品によるバックアップ対象のコンピュータ数に基づいています。ライセンスは、バックアップ対象となる物理コンピュータごとに必要です。

次の表は、製品とその主な機能の一覧です。

製品	ディスクおよびファイルのバックアップ	集中管理	重複除外	テープへのバックアップ	アプリケーションのバックアップ
Acronis Backup for Windows Server	+	-	-	-	-
Acronis Backup for Linux Server	+	-	-	-	-
Acronis Backup for PC	+	-	-	-	-
Acronis Backup for Windows Server Essentials	+	+	+	+	すべてサポート*
Acronis Backup Advanced for Windows Server	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for Linux Server	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for PC	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for Exchange	+	+	+	+	Exchange

製品	ディスクおよびファイルのバックアップ	集中管理	重複除外	テープへのバックアップ	アプリケーションのバックアップ
Acronis Backup Advanced for SQL	+	+	+	+	SQL
Acronis Backup Advanced for SharePoint	+	+	+	+	SQL、SharePoint
Acronis Backup Advanced for Active Directory	+	+	+	+	Active Directory
Acronis Backup Advanced for VMware / Hyper-V / RHEV / Citrix XenServer / Oracle VM	+	+	+	+	すべてサポート*

*サポートされるアプリケーション: Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Microsoft SharePoint、および Microsoft Active Directory。

集中管理機能を備えていない製品は、単一のコンピュータのデータをバックアップするためのものです。どの製品も、すべてのコンポーネントが同じコンピュータ上にインストールされます。インストール時にプロダクト キーを入力する必要があります。

Acronis Backup Advanced スイートは、複数のコンピュータをバックアップするためのものです。これらの製品には、バックアップ対象のコンピュータにインストールする必要があるコンポーネントに加え、集中管理を可能にする管理サーバー、およびバックアップしたデータを保存するためのストレージ ノードが含まれています。これらの追加のコンポーネントの使用にライセンスは必要ありません。たとえば、ストレージ ノードは最大 50 までの必要な数をインストールすることが可能です。

ライセンスが必要なコンポーネント（エージェント）のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。特定の製品のライセンスまたは Acronis Backup Advanced Universal License を使用してください。このライセンスでは、1 台の物理コンピュータとその物理コンピュータで実行されている任意の数の仮想コンピュータに、すべての Acronis Backup Advanced 製品をインストールできるようになります。

ネットワークを構成するサーバーが 1 台だけでワークステーションが複数の場合は、Acronis Backup for Windows Server Essentials をお勧めします。この製品をサーバー上で使用し、Acronis Backup Advanced for PC をワークステーション上で使用すると、すべてのコンピュータを集中管理できます。ドキュメントでの Acronis Backup Advanced の機能に関する説明のほとんどは、Acronis Backup for Windows Server Essentials にも当てはまります。

その他の Acronis Backup 製品のコンポーネントは、Acronis Backup Advanced のコンポーネントとは連携しません。

1.3 Acronis Backup コンポーネント

ここでは、Acronis Backup のコンポーネントとその機能の概要について説明します。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント（エージェント）

これらは、Acronis Backup によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。

コンソール

コンソールには、エージェントに対するグラフィカル ユーザー インターフェイスがあります。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。コンソールは、エージェントとともにインストールされ、エージェントから切断することはできません。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。ブータブル メディア ビルダは、エージェントとともにインストールされます。

1.3.1 エージェント for Linux

このエージェントを使用して、Linux の下でディスクレベルおよびファイルレベルでデータを保護することができます。

ディスクのバックアップ

ディスクレベルのデータ保護では、ディスクまたはボリューム ファイル システム全体とオペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、またはセクタ単位でのすべてのディスク セクタのバックアップ（RAW モード）が基本になります。ディスクまたはボリュームのコピーがパッケージ化された状態で格納されているバックアップを、ディスク（ボリューム）バックアップまたはディスク（ボリューム）イメージと呼びます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも、個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

ファイルのバックアップ

ファイルレベルのデータ保護では、エージェントがインストールされているコンピュータ上あるいは smb または nfs プロトコルを使用してアクセスされるネットワーク共有上に存在するファイルおよびディレクトリのバックアップが基本になります。ファイルは、元のロケーションにも他のロケーションにも復元できます。バックアップされたすべてのファイルとディレクトリを復元することも個別に選択して復元することもできます。

仮想コンピュータへの変換

エージェント for Linux による変換では、ディスク バックアップが VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Citrix XenServer Open Virtual Appliance (OVA)、または Red Hat Kernel-based Virtual Machine (KVM) のいずれかの種類の新しい仮想コンピュータに復元されます。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したディレクトリに保存されます。それぞれの仮想ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

異なるハードウェアへの復元

エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Acronis Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの、オペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

1.3.2 管理コンソール

Acronis Backup 管理コンソールは、Acronis Backup エージェントにローカルでアクセスするための管理ツールです。エージェントにはリモート接続できません。

1.3.3 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。Linux 上にインストールするメディア ビルダは、Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

1.4 サポートされるオペレーティング システム

Acronis Backup 管理コンソール、Acronis Backup エージェント for Linux

2.4.20 ~ 4.15 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux

以下のx86 および x86_64 Linux ディストリビューション

Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4

Ubuntu 9.10、10.04、10.10、11.04、11.10、12.04、12.10、13.04、
13.10、14.04、14.10、15.04、15.10、16.04、16.10

Fedora 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、
26、27

SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11

SUSE Linux Enterprise Server 12 – ファイルシステムでサポート（Btrfs を除く）

Debian 4、5、6、7.0、7.2、7.4、7.5、7.6、7.7、8.0、8.1、8.2、8.3、8.4、
8.5、8.6

CentOS 5.x、6.x、7、7.1、7.2、7.3、7.4

Oracle Linux 5.x、6.x、7.0、7.1、7.2、7.3、7.4 – Unbreakable
Enterprise Kernel と Red Hat Compatible Kernel の両方

CloudLinux 6.x

ClearOS 5.x、6.x、7、7.1

Astra Linux 1.5

RPM Package Managerを使用していないシステム（Ubuntuシステムなど）に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルートユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。

```
apt-get install rpm
```

1.5 システム要件

Acronis Backup for Linux Server

必要なディスク領域の合計を計算するには、インストールを計画しているコンポーネントについて、表の 3 番目と 4 番目の列に指定されている値を加算します。

コンポーネント	メモリ（OS および実行中のアプリケーションに加えて必要な容量）	インストールまたはアップデートに必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	その他
Acronis Backup for Linux Server (完全インストール)	500 MB	420 MB	700 MB	画面解像度 800 x 600 ピクセル以上
ブータブル メディア ビルド (Linux)	130 MB	300 MB	330 MB	

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	その他
Linux ベース (32 ビット)	512 MB	130 MB	
Linux ベース (64 ビット)	1 GB	175 MB	

2 Acronis Backup のインストール

このセクションでは、製品のインストール時に生じることが予想される疑問点について説明します。

2.1 準備

ここでは、Linux でのインストールの準備手順について説明します。

2.1.1 RPM パッケージ マネージャ

RPM パッケージ マネージャ (RPM) がシステムにインストールされていることを確認してください。RPM を使用していない Linux ディストリビューション (Ubuntu など) に製品をインストールする場合は、インストールの前に、次のコマンドを実行するなどして RPM を手動でインストールする必要があります。

```
sudo apt-get install rpm
```

RPM をインストール済みの Linux ディストリビューションには、Red Hat Enterprise Linux、Fedora、SUSE Linux Enterprise Server などがあります。

2.1.2 Linux packages

To add the necessary modules to the Linux kernel, the setup program needs the following Linux packages:

- The package with kernel headers or sources. The package version must match the kernel version.
- The GNU Compiler Collection (GCC) compiler system. The GCC version must be the one with which the kernel was compiled.
- The Make tool.
- The Perl interpreter.

The names of these packages vary depending on your Linux distribution.

In Red Hat Enterprise Linux, CentOS, and Fedora, the packages normally will be installed by the setup program. In other distributions, you need to install the packages if they are not installed or do not have the required versions.

Are the required packages already installed?

To check whether the packages are already installed, perform these steps:

1. Run the following command to find out the kernel version and the required GCC version:

```
cat /proc/version
```

This command returns lines similar to the following: **Linux version 2.6.35.6** and **gcc version 4.5.1**

2. Run the following command to check whether the Make tool and the GCC compiler are installed:

```
make -v  
gcc -v
```

For **gcc**, ensure that the version returned by the command is the same as in the **gcc version** in step 1. For **make**, just ensure that the command runs.

3. Check whether the appropriate version of the packages for building kernel modules is installed:

- In Red Hat Enterprise Linux, CentOS, and Fedora, run the following command:

```
yum list installed | grep kernel-devel
```

- In Ubuntu, run the following commands:

```
dpkg --get-selections | grep linux-headers  
dpkg --get-selections | grep linux-image
```

In either case, ensure that the package versions are the same as in **Linux version** in step 1.

4. Run the following command to check whether the Perl interpreter is installed:

```
perl --version
```

If you see the information about the Perl version, the interpreter is installed.

Installing the packages from the repository

The following table lists how to install the required packages in various Linux distributions.

Linux distribution	Package names	How to install
Red Hat Enterprise Linux	kernel-devel gcc make	The setup program will download and install the packages automatically by using your Red Hat subscription.
	perl	Run the following command: <code>yum install perl</code>
CentOS Fedora	kernel-devel gcc make	The setup program will download and install the packages automatically.
	perl	Run the following command: <code>yum install perl</code>
Ubuntu	linux-headers linux-image gcc make perl	Run the following commands: <code>sudo apt-get update</code> <code>sudo apt-get install linux-headers-`uname -r`</code> <code>sudo apt-get install linux-image-`uname -r`</code> <code>sudo apt-get install gcc-<package version></code> <code>sudo apt-get install make</code> <code>sudo apt-get install perl</code>

The packages will be downloaded from the distribution's repository and installed.

For other Linux distributions, please refer to the distribution's documentation regarding the exact names of the required packages and the ways to install them.

Installing the packages manually

You may need to install the packages **manually** if:

- The machine does not have an active Red Hat subscription or Internet connection.
- The setup program cannot find the **kernel-devel** or **gcc** version corresponding to the kernel version. If the available **kernel-devel** is more recent than your kernel, you need to either update the kernel or install the matching **kernel-devel** version manually.

- You have the required packages on the local network and do not want to spend time for automatic search and downloading.

Obtain the packages from your local network or a trusted third-party website, and install them as follows:

- In Red Hat Enterprise Linux, CentOS, or Fedora, run the following command as the root user:

```
rpm -ivh PACKAGE_FILE1 PACKAGE_FILE2 PACKAGE_FILE3
```

- In Ubuntu, run the following command:

```
sudo dpkg -i PACKAGE_FILE1 PACKAGE_FILE2 PACKAGE_FILE3
```

Example: Installing the packages manually in Fedora 14

Follow these steps to install the required packages in Fedora 14 on a 32-bit machine:

1. Run the following command to determine the kernel version and the required GCC version:

```
cat /proc/version
```

The output of this command includes the following:

```
Linux version 2.6.35.6-45.fc14.i686  
gcc version 4.5.1
```

2. Obtain the **kernel-devel** and **gcc** packages that correspond to this kernel version:

```
kernel-devel-2.6.35.6-45.fc14.i686.rpm  
gcc-4.5.1-4.fc14.i686.rpm
```

3. Obtain the **make** package for Fedora 14:

```
make-3.82-3.fc14.i686
```

4. Install the packages by running the following commands as the root user:

```
rpm -ivh kernel-devel-2.6.35.6-45.fc14.i686.rpm  
rpm -ivh gcc-4.5.1.fc14.i686.rpm  
rpm -ivh make-3.82-3.fc14.i686
```

You can specify all these packages in a single **rpm** command. Installing any of these packages may require installing additional packages to resolve dependencies.

2.1.3 インストール ファイル

コンピュータのプラットフォーム (x86 または x86_64) に応じて、.i686 または .x86_64 インストール ファイルが必要です。次のコマンドを実行するなどして、ファイルを実行するために必要なアクセス許可がファイルに割り当てられていることを確認します。

```
chmod 755 AcronisBackup*
```

2.2 対話型モードでのインストール

1. ルート ユーザーとして、該当するインストール ファイル (.i686 または .x86_64 ファイル) を実行します。
2. 使用許諾契約の内容に同意します。
3. 次のいずれかを実行します。
 - 試用モード 『5ページ』で製品をインストールするには、**[試用モードでのインストール]** をクリックします。
 - クラウド バックアップのみを目的として製品をインストールするには、**[クラウド バックアップ専用のインストール]** を選択します。
 - 完全モードで製品をインストールするには、**[プロダクト キーの入力]** を選択し、Acronis Backup のプロダクト キーを入力します。
4. インストールするコンポーネントを選択します。
5. Red Hat Enterprise Linux または CentOS にソフトウェアをインストールする場合、セットアップ プログラムで、要求された Linux パッケージの一部が存在しないと通知されることがあります。これらのパッケージを自動的にインストールするには **[続行]** (推奨) を選択し、パッケージのインストールをスキップするには **[スキップ]** を選択します。必要なパッケージの詳細については、「Linux パッケージ 『12ページ』」セクションを参照してください。
6. セットアップ プログラムは、Linux カーネル用の SnapAPI モジュールを自動的にコンパイルしようとします。インストールに失敗した場合、ファイル **/usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/HOWTO.INSTALL** を参照してください。

2.3 無人モードでのインストール

確認を求められない無人モードで製品をインストールするには、インストール ファイルを **-a** コマンドライン パラメータで実行します。場合によっては、他のパラメータ 『17ページ』を使用してインストールの実行方法を指定する必要があります。

次の例では、インストール ファイルの名前が AcronisBackupL.i686 であると仮定しています。

次のコマンドは、プロダクト キー 12345-7890-ABCDE を使用し、無人モードで Acronis Backup をインストールします。

```
./AcronisBackupL.i686 -a -l 12345-67890-ABCDE
```

2.4 コマンドライン パラメータ

Acronis Backup のインストール ファイルを実行する際、1 つ以上のコマンドライン パラメータを指定できます。

共通パラメータ

-a または、**--auto**

デフォルトの対話型モードではなく、いわゆる無人セットアップ モードでインストールを実行します。

セットアップ プログラムは、プロダクト キーの入力や **[次へ]** のクリックなどのユーザーによる操作を要求せずに続行されます。**-l** パラメータを使用して、プロダクト キーを指定します。**-i** パラメータを使用して、インストールするコンポーネントを指定します。

SnapAPI モジュールのコンパイルが必要で、コンパイルが可能な場合は、セットアップ プログラムは自動的にモジュールをコンパイルします。それ以外の場合は、コンパイルをスキップします。

-n または、**--nodeps**

無人セットアップ時に依存関係を無視します(前述の **-a** パラメータの説明を参照してください)。

このパラメータを指定すると、ソフトウェアの動作に必要なパッケージがインストールされていない場合でもセットアップは続行します。依存関係が不完全な場合は、ソフトウェアの機能が限定されます。

-u または、--uninstall

コンポーネントをアンインストールします。プロダクト キーを指定する必要はありません。

-s または、--disable-native-shared

システム内に存在するライブラリの代わりに、インストール中にセットアップ プログラム独自の再配分可能なライブラリを強制的に使用します。

再配分可能なライブラリは、内部ツールの標準セットです。プログラムは、ユーザー インターフェイスの表示などにこれらのライブラリを使用します。

セットアップ プログラムは、必要なすべてのライブラリのコピーを含んでいます。デフォルトでは、システム内にこのライブラリが存在していない場合のみライブラリのコピーを使用します。このパラメータを使用すると、セットアップ プログラムで常にコピーが使用されます。

セットアップ プログラムのユーザー インターフェイスが正しく表示されない場合など、インストールに問題が発生した場合にこのパラメータを使用することができます。

-d または、--debug

インストール ログに詳細な情報を書き込みます。

-i <コンポーネント名> または --id=<コンポーネント名>

インストールするコンポーネント名を指定します。

Acronis Backup エージェント for Linux の場合: **BackupAndRecoveryAgent**

Acronis Backup ブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダ:

BackupAndRecoveryBootableComponents

Acronis Backup 管理コンソールの場合: **ManagementConsole**

名前は大文字/小文字が区別されます。

このパラメータを指定しないと、すべてのコンポーネントがインストールされます。

-v または、--version

製品のバージョンを表示して終了します。

-? または、 **--help**

ヘルプを表示して終了します。

--usage

使用法に関する簡単なメッセージを表示して終了します。

インストール モードを決定するパラメータ

- 製品を試用モードでインストールするには、 **-T** パラメータを使用します。
- 製品を完全モードでインストールするには、 **-1** パラメータを使用します。
- クラウド バックアップのみを目的として製品をインストールするには、これらのパラメータを一切指定しないでください。

-T または、 **--trial**

製品を試用モードでインストールします。

-1 <プロダクト キー> または **--serial=<プロダクト キー>**

Acronis Backup のプロダクト キーを指定します。

3 Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へのアップグレード

ライセンスの購入

アップグレードの前に、Acronis Backup のアップグレードを計画しているコンピュータごとに Acronis Backup Advanced のライセンスを購入してください。ライセンスの名前は、コンピュータに現在インストールされている製品に応じて異なります。

インストールされている製品	アップグレードに適しているライセンス
Acronis Backup for Windows Server	Acronis Backup Advanced for Windows Server
Acronis Backup for Linux Server	Acronis Backup Advanced for Linux Server
Acronis Backup for PC	Acronis Backup Advanced for PC

購入後、プロダクト キーが記載された電子メールがお手元に届きます。

製品のアップグレード

Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順 1: ライセンスの変更

Acronis Backup をアップグレードするコンピュータごとに、次のようにライセンスを変更します。

1. Acronis Backup を実行します。
2. **[ヘルプ]** メニューで **[ライセンスの変更]** をクリックします。
3. **[ディスク/ファイルのバックアップのライセンス]** の右側にある **[変更]**、**[変更]** の順にクリックして、次に **[使用するプロダクト キー]** をクリックします。
4. このコンピュータの新しいプロダクト キーを入力します。
5. **[OK]** をクリックして新しいライセンスを適用し、警告メッセージで **[はい]** をクリックしてから、**[OK]** をクリックします。

以前にコンピュータに割り当てられたライセンスは取り消され、管理コンソールが再起動されます。これで、管理コンソールをリモート コンピュータに接続し、リモート ロケーションからこのコンピュータに接続することができるようになります。

手順 2: セットアップ プログラムのダウンロード

<http://kb.acronis.com/content/1642>（英語）の説明に従って、Acronis ウェブ サイトから Acronis Backup Advanced のセットアップ プログラムをダウンロードします。

手順 3: 管理サーバーのインストール



Windows を実行しているコンピュータに Acronis Backup 管理サーバーをインストールします。コンピュータのシステム ディスクに少なくとも 8 GB の RAM と 4.5 GB の空き領域が必要です。

製品をアップグレードしたコンピュータの 1 つに管理サーバーをインストールすることをお勧めします。これを行うための手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを実行し、**[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
2. 使用許諾契約の内容に同意し、**[変更]** をクリックします。
3. コンポーネント ツリーで、**[管理サーバー]** を選択します。
4. 画面の指示に従います。ほとんどの場合、デフォルトの設定のままにします。

大規模な環境では、専用の物理サーバーまたは仮想サーバーを設定することをお勧めします。詳細については、Acronis Backup Advanced のインストールに関するドキュメントを参照してください。

手順 4: 管理サーバーへのアップグレード済みコンピュータの追加

1. 製品がアップグレードされた任意のコンピュータで、Acronis Backup を実行します。
2. **[管理サーバーへの接続]** をクリックし、サーバーの名前または IP アドレスを入力します。資格情報の入力が必要の場合は、管理サーバーの **Acronis Centralized Admins** グループおよび **Acronis Remote Users** グループのメンバーであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
3. **[ナビゲーション]** ツリーで  **[エージェントがインストールされているコンピュータ]** を選択します。
4. ツールバーの  **[複数のコンピュータの追加]** をクリックします。
5. 次のいずれかの方法で、アップグレードされたコンピュータを追加します。
 - アップグレードされたコンピュータの名前または IP アドレスを指定する。
 - ネットワークを参照する。
 - アクティブ ディレクトリ ドメインを参照する。
 - .txt ファイルまたは .csv ファイルからコンピュータの一覧をインポートする。

詳細については、Acronis Backup Advanced のインストールに関するドキュメントの「コンピュータの一覧の指定」セクションを参照してください。

高度な使用に関するヒント

追加されたコンピュータは、管理サーバーの **[エージェントがインストールされているコンピュータ]** ビューに表示されます。

そのコンピュータのバックアップ計画は変更されません。管理サーバーでバックアップ計画を表示するには、コンピュータの名前を右クリックし、**[詳細の表示] > [バックアップの計画およびタスク]** を選択します。製品がバックアップを継続するため、アップグレードの前に作成されたバックアップから復元できます。

これで、複数のコンピュータを同時に 1 つのロケーションにバックアップする集中管理用バックアップ計画を作成することができます。

4 ソフトウェアのアップデートの確認

管理コンソールを開始するたびに、Acronis Backup によって、Acronis ウェブ サイトにソフトウェアの新しいバージョンがあるかどうかを確認されます。新しいバージョンが見つかった場合、新しいバージョンのセットアップ プログラムをダウンロードするためのリンクが提供されます。

アップデートを手動で確認するには、管理コンソールを開始し、**[ヘルプ] > [アップデートの確認]** をクリックします。このウィンドウで、アップデートの自動確認を無効にすることもできます。

5 Acronis Backup のアンインストール

Acronis Backup をアンインストールする手順は、次のとおりです。

root ユーザーとして、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行します。

```
# /usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/uninstall/uninstall
```

無人モードで製品をアンインストールするには、コマンドを **-a** パラメータで実行します。

2. 次のコマンドを実行して、SnapAPI モジュールのソース ファイルを削除します。

```
# rm -rf /usr/src/snapapi*
```

6 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除するには

1. **[アクション]** メニューで **[Acronis セキュア ザーンの管理]** をクリックします。
2. **[Acronis セキュア ザーンの削除]** ウィンドウで、セキュア ザーンから解放された領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup によってゾーンの削除が開始されます。